



わたしのおすすめ

自分で作る野菜は格別



いきいき市民農園
実行委員会委員長
ははべ 波々部 一郎さん(大田)

今、食に関する偽装などが多くて、食の安心・安全が切実に求められるようになりましたね。ここで自分で作る無

農薬野菜は唯一安心して口にできるものだと思います。農薬をしていないので虫は付きますが、虫が食べるぐらい安心なんだと私は思っています。

また、野菜作りの楽しさは、自分たちが必要な分だけを作る「自給自足の生活」を体験できるところにもあります。一度にできすぎる夏野菜などは仲間同士で分け合ったりします。採れたて完熟トマトのおいしいことと言ったら格別ですよ。

市民農園では色んな年代の人が野菜や花を作っています。仲良く畑仕事をする老夫婦、小さな

子どもの手を引いて野菜の育ち具合を見に来るお母さん。そばで土を触ったり、虫を捕まえたりと、子どもにはすばらしい情操教育になっていると思います。



ここでの取り決めはたった2つ。「化学肥料や農薬は使わないこと」「年2回の環境整備には参加すること」。皆で和気あいあいと、種のまき時や作り方など話しながら挑戦してみませんか？

いきいき市民農園 利用者募集

ところ いきいき市民農園(大田)
グリーンヒルズ津山の南約300m
募集区画 17区画(1区画40㎡)
年間利用料 6千円
期間 4月1日～翌年3月末
※最長5年間の継続ができます
締め切り 2月29日(金)応募多数の場合は抽選
問い合わせ先 農業振興課☎32-2079

寝 たきりの人など
投票は
どうするの？

わたしも
ひとりごと

現在、半身に麻痺のある父の介護をしています。父は歩くことや人の視線などを気にして、とても傷付きやすくなっています。毎回、選挙の投票には必ず行きますが、会場での関係者の人たちの視線に萎縮してしまい、足が動かなくなっています。そばにいた家族も胸が痛み、何か良い方法がないものかということも感じています。



高齢者の人などとはどのように投票しているのでしょうか？
(匿名)
選挙は選挙期日(投票日)に投票所において投票すること原則としていますが、選挙期日に投票に行けない場合や、仕事や旅行などで住んでいる地域以外の場所に出掛けている場合など、さまざまな状況を考慮した仕組みがあります。身体障害者手帳を持っている人で、両下肢・体幹・移動機能の障害が1級か2級の、心臓・腎臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸の障害が1級か3級の人、免疫の障害が1級から3級の人、また介護保険の要介護状態区分が要介護5の人などは、郵便などにより不在者投票が可能です。詳しい内容や手続きなどはお問い合わせください。

問い合わせ先 選挙管理委員会事務局☎32-2143



津山ステンレスネットは現在8社で構成しており、1つの受注を複数企業で受けています。ステンレス加工工程の異なる企業が技術の補完をすることで、高い技術レベルの仕事ができるのです。8社合計の売り上げ、設備投資額、従業員数とも大きく上昇しています。グループ内で成功事例が出ると「自分も！」という企業が増えることで競争が起き、伸びるのです。ここまで来るのに10年。苦労もあつた分、思いは深いですね。全力で支えてくれたんですね。私のような地域経済密着型コーデイネーターには地域産業への愛着と将来ビジョンが必要です。自分の生まれた地域を愛し、地域産業の活性化を望む。「津山の地場産業をどうにかしよう！」という思いが私を動かしています。

これからやってみたいことは？
現在、4つの産業クラスター(ステンレス・食品・ユニバーサルデザイン・農業)の形成を目指していますが、もっと売り上げを増やし、雇用の増大につなげたいですね。中でも、ステンレス加工には技術があるので、

「今となっては感謝されるけど、最初は怒られたこともあったよ」と藪木さん。産業支援は上からではなく、下から入り込むものなんです。

技術者の養成や人材育成が必要で、次世代の担い手を育てるために、学生や親、先生に津山の産業についてもっと知ってもらい、地元企業への就職を勧めたいです。

間伐しない山は、遠目には青々とした立派な山に見えますが、実際は線香林が続いているだけ。思い切った間伐し、価値のある木を育てなければいけません。「本当にやる気のある企業は伸ばしてあげなくてはいいけない」のです。これまで、仕掛けては消え、仕掛けては消えたことはたくさんあります。それでも仕掛けていく。この姿勢を忘れないようにしたいですね。



未来をひびく 津山人

同じ目線で支援し続けて

つやま新産業開発推進機構
産業活性化チーフアドバイザー



藪木 伸一さん

津山地域の産業振興を目的に新技術・新商品から販路開拓まで一体的にサポートしている「つやま新産業開発推進機構」。そこで産業活性化チーフアドバイザーとして積極的に活動している津山市出身の藪木伸一さんにお話を伺いました。

6月に第2期「地域産業おこしに燃える人」として全国36人の1人に認定。また、11月には平成19年度「おかやま産学官連携大賞」を受賞され、地域産業活性化の尽力者として活躍されていますね。おめでとーござい

これまでの実績を評価していただいていた大変光栄です。今回の受賞は機構と一緒に努力してきた仲間たちのおかげです。機構ではどのような役割を？
機構ができたのは平成8年4月。私は企業OB(民)の立場でかわり始めました。企業OB主導型産業振興の旗振り役です。大学教授らが持つ専門知識をリーディング産業育成に結び付けるコーディネーター、コンサルタント、アドバイザー、橋渡し役、産学官のつなぎ役。いわゆる仲人みたいなものです。これまでで印象に残っていることは？
津山ステンレスネットの立ち上げですね。津山地域のステンレス加工業の切削加工は全国的にもトップレベルなんです。ほかの産業も引っ張っていきけるリーディング産業になれると思います。